

予算質疑



2名が登壇

平成16年度補正予算を問う

清水澄夫 議員

問 災害復旧費の中で農林水産施設・土木施設について、台風22号の被害では一般家庭から公共施設まで大きな被害が生じました。そこでお聞きしますが土木施設災害復旧費には1億円の国・県の支出金が計上されていますが農業水産施設災害復旧費は何故計上されないのか

答 今回の災害で農林災害としては市内全域で23ヶ所、内訳は浜岡地区22ヶ所、御前崎地区1ヶ所となっている。道水路別では農道20ヶ所、水路3ヶ所ある。被害調査の中で、農林災害として国の補助要綱に該当しそうな箇所について、県農林事務所とも協議しながら検討した。その結果、農道や林道として整備した道路が、その後には市道認定されて建設課に移管されますと、農林災害でなく公共災害によっての申請ということになる。土砂や倒木の除去について、農道として使われている部分のみが補助対象となり法面などは対象外ですので市の単独費として復

旧工事に早期に着手し、農地の管理に支障をきたさないようにする。



阿南澄男 議員

問 水道事業収益10億5、800万円の約3割、2億8、000万円の補助金となっていますが、厳しい財政状況にある一般会計からの補助額に上限設定を考えているか

答 市水道事業会計は今年度が実質初年度になる。補助金を使うことにはならないと思うが、経営にはできる限り努力している。今年度の決算状況を見て適正な補助額を検討していく。

問 旧浜岡町、旧御前崎町では有収率に格差があり、その原因となる御前崎地区の老朽管の使用率も高い（1年間に3、000万円の損失金は一般会計からの補助金で補っている）布設替や配水管の整備事業対策と補助額減少に向け対策を考え実行しているか

答 御前崎地区の有収率の向上が一番の問題になっている。老朽管の布設替などに積極的に取り組んでいく。



問 16年度予定で現金預金4億3、800万円を一部取り崩して次年度の一般会計の負担軽減と老朽管布設替事業に活かしてはどうか

答 16年度決算見込みでは4億円余の預金があり検討したい。